

2024年度  
3年生 後期シラバス  
(看護学科)

実の力を、学ぶ学校



学校法人  
日翔学園

**高知開成専門学校**

## <シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	情報セキュリティとPC活用	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	久保 一夫	実務経験のある教員	○
学習目的	1. 卒業研究に備え、研究発表に対応するためのプレゼンテーションの方法を修得する。				
学習目標	1. プレゼンテーションができるためのスライド作成の方法を知り、作成できる。 2. 医中誌の検索方法を知る。				
授業計画	1	PowerPoint プレゼンテーションの作成			
	2	PowerPoint オブジェクトの挿入と編集(1)			
	3	PowerPoint オブジェクトの挿入と編集(2)			
	4	PowerPoint スライドマスターの設定			
	5	PowerPoint 表示効果n設定(1)(2)			
	6	PowerPoint スライドショーの実行			
	7	情報倫理とセキュリティ 著作権・ネットショッピングの利用			
	8	情報倫理とセキュリティ ネット社会でのコミュニケーション			
	9	情報倫理とセキュリティ コンピュータウィルス対策			
	10	情報倫理とセキュリティ 迷惑メールへの対応			
	11	情報倫理とセキュリティ フィッシング・悪質商法			
	12	情報倫理とセキュリティ パスワードの管理と個人情報			
	13	情報倫理とセキュリティ 不正アクセス対策			
	14	情報倫理とセキュリティ Windowsのセキュリティ対策			
	15	まとめ・試験			
授業方法	講義、演習				
テキスト・参考文献	情報リテラシーパーフェクトブック:ウイネット				
評価方法	授業参加姿勢、試験				
履修上の注意事項	終了試験と授業への参加度で創意的に評価する。				

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	研究論文の技法 I	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	武政 あゆみ	実務経験のある教員	○
学習目的	研究の意義や基本的な知識を理解できる。				
学習目標	1. 研究について基本的な知識と記述方法について理解する。 2. 研究における倫理について理解する。 3. ケーススタディの基礎知識と記述方法を理解する。 4. テーマ周辺の文献を検索できる。				
授 業 計 画	1	研究とは何か			
	2	質的研究とは			
	3	量的研究とは			
	4	文献検索について			
	5	研究論文を読み研究のもたらす意義について意見交換			
	6	ケーススタディとは			
	7	ケーススタディ記述方法			
	8	ケーススタディ計画と準備			
	授業方法	講義、演習			
テキスト・参考文献	編小笠原和枝他「これからの看護研究」第3版、ヌーベルヒロカワ 監修高橋百合子「看護学生のためのケーススタディ」、「メジカルフレンド社 講師が用意する資料				
評価方法	出席状況、授業参加状況、課題レポート				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	研究論文の技法Ⅱ	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	武政あゆみ (他 専任教員)	実務経験のある教員	○
学習目的	実習中に受け持った患者のケースをまとめることで看護の状況を振り返り、自身が実践した看護の意味を考え、今後の看護実践の示唆を得ることができる。				
学習目標	1. ケースレポート計画書、本文、抄録を作成でき、このプロセスの必要性について説明できる。 2. 発表用スライドを作成できる。 3. 発表会の企画・運営に主体的に参加し、他者の発表に対しても建設的な意見が述べられる。 4. ケースレポート記述の過程で得られた看護観を今後の看護実践に活かす認識が持てる。				
授 業 計 画	1	ケースレポート計画書作成			
	2	ケースレポート計画書作成			
	3	ケースレポート本文作成			
	4	ケースレポート本文作成			
	5	ケースレポート本文作成			
	6	ケースレポート本文作成			
	7	ケースレポート本文作成			
	8	ケースレポート本文作成			
	9	ケースレポート本文作成			
	10	ケースレポート本文作成			
	11	ケースレポート本文作成			
	12	ケースレポート抄録作成			
	13	ケースレポート抄録作成			
	14	ケースレポートパワーポイント作成			
	15	ケースレポートパワーポイント作成			
授業方法	演習(個人ワーク)、ゼミナール形式、オフィスアワーは事前に申し出てください。				
テキスト・参考文献	監修高橋百合子「看護学生のためのケーススタディ」、「メジカルフレンド社各自テーマに沿った文献、著書				
評価方法	出席状況、ケースレポート作成への積極的取り組み、ケースレポート計画書・本文・抄録・スライド内容				
履修上の注意事項	個人によって作成状況が異なると思われませんが期日までに全てを仕上げる必要があります。発表会の企画・運営は、全員で協力して実施します。				

<シラバス>

科目区分	基礎分野	科目名	土佐学	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	公文 豪	実務経験のある教員	—
学習目的	1. 社会文化を学び、自らの文化を考え、自己と他者の理解を深める。 2. 先人の行動を通して、時代を変える発想、違う観点での物事の見方を知る。 3. 主体的な責任感を持って行動することの重要性を知る。				
学習目標	1. 土佐の自由民権運動を知り、人権の重要性を理解し、人権意識をもてる。 2. 身近な地域社会を知り、そこで暮らす人々を一人の人間として尊敬し、築いてきた文化・風土を理解する。 3. 地域社会の文化や特性、発展の歴史を知ることにより、看護の対象者の理解を深める。				
授 業 計 画	1	高知県の歴史と文化			
	2	坂本龍馬について			
	3	板垣退助について			
	4	岩崎弥太郎について			
	5	中岡慎太郎について			
	6	浜口雄幸について			
	7	田内千鶴子について			
	8	まとめ			
	授業方法	講義			
テキスト・参考文献	講師が準備する資料				
評価方法	出席状況、課題レポート				
履修上の注意事項	年度により紹介する偉人に変更あり				

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	多職種連携論	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	松本佳代 (他専任教員)	実務経験のある教員	○
学習目的	専門職種間の有機的な連携と協業についての基礎知識を修得し、多職種連携が果たす役割や機能について学ぶ。また、他校に在籍する学生(リハビリ職)とのグループワーク演習を通じ、ディスカッション能力を身につけるとともに、専門性について考察できる。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.多職種と連携・協業していくために、必要な知識や態度、コミュニケーション技術を身につける。</li> <li>2.多職種連携において患者、利用者を中心とした視点が持てる。</li> <li>3.多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。多職種連携におけるそれぞれの専門職の役割を理解し、説明できる。</li> <li>4.多職種連携における各専門職の教育背景が異なることを配慮して、他学科の学生と意見交換ができる。</li> <li>5.グループワーク演習を円滑に進めるために協力することができる。</li> <li>6.グループ演習を通してグループ内で信頼関係を築ける。</li> <li>7.グループ演習時の自分自身をリフレクションし、考えや価値観を説明できる。</li> </ol>				
授業計画	1	オリエンテーション(授業の進め方、課題の提出方法について理解できる) 多職種連携の必要性(多職種連携が求められる背景とその重要性について理解する)			
	2	多職種連携に関わる各職種の役割 (病院や地域において多職種連携に関わる各職種の役割について知る)			
	3	多職種連携に必要な技術1 (多職種で行うディスカッションの方法と円滑に進めていくためのファシリテーションファシリテーターについて理解する)			
	4	多職種連携に必要な技術1 (多職種で行うディスカッションの方法と円滑に進めていくためのファシリテーション・ファシリテーターについて理解する)			
	5	多職種連携に必要な技術2 (コンフリクトマネジメントについて理解する)			
	6	多職種連携演習	1.多職種連携に必要な技術を用いて円滑な議論の進め方を学ぶ 2.各職種の視点で課題を整理し、伝えることができる 3.抽出できた課題の解決のための目標や解決策を共有し、チームで統一したプロセスを思考する必要性について理解する		
	7	多職種連携演習			
	8	多職種連携演習			
授業方法	講義・演習授業は他学校の多職種と実施します。詳細は、授業で説明します。				
テキスト・参考文献	なし 講師が準備する資料				
評価方法	出席、講義及び演習の参加状況、課題レポート				
履修上の注意事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>①各回で学んだことを復習すること</li> <li>②演習授業では、積極的に参加し、多職種の考え方や役割を理解すること</li> </ol>				

<シラバス>

科目区分	専門基礎分野	科目名	公衆衛生	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	大井 美樹	実務経験のある教員	—
学習目的	公衆衛生の意義と重要性や、わが国の健康水準の現況および疾病予防や健康増進のための方策について学び公衆衛生学的な考え方を身につける。				
学習目標	①健康・疾病・障害と生活の関わりの基本的な概念を理解する。 ②生活環境が健康に及ぼす影響について述べることができる。 ③地域住民の健康を保持増進するための保健活動を理解する。 ④自然科学的な研究方法論である疫学の考え方を習得する。				
授 業 計 画	1	公衆衛生とは何か。公衆衛生の歴史			
	2	公衆衛生からみる人間と環境—人間の健康と自然・生活環境—			
	3	衛生統計と公衆衛生—グループワーク—			
	4	衛生統計と公衆衛生—グループワーク—			
	5	グループワーク発表			
	6	疫学とは 感染症と予防			
	7	地域保健・産業保健・環境保健			
	8	まとめ、試験			
	授業方法	講義、演習			
テキスト・参考文献	テキスト:国民衛生の動向:厚生統計協会 参考文献:新体系看護学全集 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学 第4版メヂカルフレンド社. 2016				
評価方法	試験 出席状況 授業態度(GWの参加状況)、レポート				
履修上の注意事項	健康・環境・健康に関する社会の状況について関心をもつこと。				

## <シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	災害看護	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	増田 みちる	実務経験のある教員	—
学習目的	災害の特徴、災害医療および看護の基本を理解するとともに、災害各期の看護に必要な知識、急性期の救護活動に必要な基本的救護技術を習得し、実践に活かすことができる能力を養う。				
学習目標	1. 災害医療・災害看護の概念を理解できる。 2. 災害各期の看護活動を理解できる。 3. 災害時の応急処置の実際を理解できる。				
授 業 計 画	1	実際に起こった災害と医療・看護活動			
	2	災害の定義と災害看護の役割			
	3	災害サイクルとサイクル別看護1			
	4	災害サイクルとサイクル別看護2			
	5	災害の種類・災害時期別健康問題1			
	6	災害の種類・災害時期別健康問題2			
	7	災害医療			
	8	まとめ、試験			
	授業方法	講義、演習			
テキスト・参考文献	災害看護、メヂカルフレンド者				
評価方法	出席状況、演習参加状況、試験				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	看護管理	単位数	1単位 (15時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	戸田 かつり 藤井 千江美	実務経験のある教員	—
学習目的	1. 看護専門職として看護実践をする責任を理解し、計画、組織化、支持、調整、統制を行う基礎的なマネジメント能力を養う。また、チームや組織、システムを動かしていくためのマネジメント、リーダーシップの必要性を理解する。 2. 病院経営の基盤となる財政を理解する。 3. 発展途上国での看護活動の実践者から、医療・保健に影響を与えているさまざまな要因や実情を知り、社会科学、人間科学的な視点も踏まえ看護の役割について理解する。				
学習目標	1. 看護管理の目的や看護におけるマネジメントについて理解できる 2. 看護師のキャリア開発について理解する。 3. 財政的視点を理解することで、コスト意識をもった看護実践の必要性を理解する。 4. 医療・看護を経済的視点で考えることができる 5. グローバルな視点で世界の人々の健康・生活課題と国際看護活動の実際について理解できる。				
授業計画	1	看護管理の基礎、目的(管理の変遷、手法について理解する)			
	2	看護ケアのマネジメント、看護サービスのマネジメント			
	3	マネジメントに必要な知識と技術(組織、集団とは)			
	4	マネジメントに必要な知識と技術(リーダーシップ、メンバーシップ)			
	5	看護を取り巻く諸制度			
	6	医療経済と看護管理の実際			
	7	国際看護			
	8	国際看護			
授業方法	講義、演習				
テキスト・参考文献	ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践 看護管理:MCメディカ出版 講師が用意する資料				
評価方法	出席状況、授業参加状況、試験				
履修上の注意事項					

## <シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	学びの統合 I	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	松本佳代 (他専任教員)	実務経験の ある教員	○
学習目的	卒業時に求められる臨床判断と適切な看護援助を事例をもとに学習し、総合的な看護技術能力を養う。				
学習目標	1. 卒業時に最小限度の必要な各技術の根拠を明確にでき、技術を実践することができる。 2. 事例をもとにして、医療現場に近い状況で学習し、必要な看護を実践できる。				
授 業 計 画	1	基礎看護学	事例に基づいた看護展開演習	植田	
	2	基礎看護学			
	3	地域・在宅看護論	事例に基づいた看護展開演習	山本	
	4	地域・在宅看護論			
	5	成人看護学(急性期看護学)	事例に基づいた看護展開演習	大沢	
	6	成人看護学(急性期看護学)			
	7	成人看護学(慢性期看護学)	事例に基づいた看護展開演習	武政	
	8	成人看護学(慢性期看護学)			
	9	老年看護学	事例に基づいた看護展開演習	山本	
	10	老年看護学			
	11	精神看護学	事例に基づいた看護展開演習	永尾	
	12	精神看護学			
	13	小児看護学	事例に基づいた看護展開演習	戸梶	
	14	小児看護学			
	15	まとめ			
授業方法	演習				
テキスト・参考文献	教員が用意した事例と課題				
評価方法	出席状況、課題レポート、演習状況				
履修上の注意事項	評価は、事前の学習状況、演習における基礎技術、主体的に参加できているかなど態度も含め評価します。				

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	学びの統合Ⅱ	単位数	3単位 (90時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	松本佳代 (他専任教員)	実務経験のある教員	○
学習目的	既習の学習で得られた知識の習得状況を確認し、知識不足の分野の再学習を行う。また、基礎知識や技術を科学的根拠のもとに思考して、必要な看護を導き出すことができる能力を養う。				
学習目標	1. 3年間で学んだ専門基礎分野、専門分野の基礎知識・技術の理解度を試験形式で確認する。 2. 理解不足の分野の基礎知識を習得し、科学的根拠のが思考できる。 3. クリティカルシンキングから必要な看護を考えることができる。				
授 業 計 画	1	基礎知識・技術習得状況確認試験及び補習			
	45				
授業方法	専門基礎分野および専門分野の既習内容の理解度確認のため試験を実施 試験結果から不得意な分野や理解不足の分野について補習実施				
テキスト・参考文献	教員が用意する資料				
評価方法	試験解答率、出席状況、補習時の態度、レポートの総合評価				
履修上の注意事項					

<シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	地域・在宅看護論実習Ⅲ	単位数	1単位 (30時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	高齢化が進んでいる地域で暮らす人々の生活や健康上のニーズや特性を理解し、対象者の健康保持・増進・疾病予防・QOLの維持・向上した生活の拡大、自立に向けての看護の役割を学ぶ。さらに、地域の保健活動の現状と看護職者の地域看護における役割と関係職種との役割・連携・協働について学び、看護が展開できる能力と態度を養う。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域で暮らす人々とその家族の健康上の課題を理解し、健康回復・維持・増進・予防への援助方法を学ぶ。</li> <li>2. 地域で暮らす人々を「生活者」と捉え、生活の中での支援活動の実際を学ぶ。</li> <li>3. 地域で暮らす人々と家族の意思を尊重した支援方法を学ぶ。</li> <li>4. 地域の多機関、多職種との役割・機能と連携・協働の実際を理解する。</li> <li>5. 看護の継続性や社会資源活用システム、医療・福祉機関との連携について考えることができる。</li> </ol>				
授業計画	<p><b>【実習内容・実習方法】</b>          &lt;実習時間 1単位 30時間 4日間&gt;          学年を2つのグループに分けて編成をする。2泊3日の宿泊研修の形態とする。</p> <p>学内実習          事前学内(0.5日) オリエンテーション、既習の学習の復習とまとめ、自己の目標の明確化</p> <p>学内事後(0.5日)          3日間の実習を振り返り、学びと気づきについて発表。発表内容について、意見交換する。          住民が安心して暮らすことができる環境や地域における看護師の役割について考察する。</p> <p>実習内容・留意点  <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域の特徴と住民のニーズを理解するとともに、この状況に基づいたサービスの実際を知る。</li> <li>2. 地域における多職種連携・協働の実際と各専門職の役割や活動内容を知る。</li> <li>3. 住民と直接触れあい、暮らしにおける困りごとや住民同士のつながりなどについて知る。</li> <li>4. 母子保健活動の実際を知る。</li> <li>4. 可能であれば自宅訪問に同行し、家族・家庭の状況を観察する。</li> <li>5. 実習要綱に基づいて目的・目標が達成できるよう計画的に実習を行う。</li> <li>6. 実習最終日は、実習を振り返り、実習内容、学びや気づきについて発表する。              (前日、夜にグループワークを行い、ポスター作成や発表内容について検討する。)</li> </ol> </p> <p>実習施設:          中芸広域連合保健福祉課          中芸広域連合地域包括支援センター          相談支援事業所ちゅうげい          児童発達支援センターぷらうらんどKouminkan</p>				
授業方法	臨地実習				
テキスト・参考文献	地域・在宅看護論、社会福祉論、関係法規				
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況など総合的に評価				
実習施設					

## <シラバス>

科目区分	専門分野	科目名	統合実習	単位数	2単位 (90時間)
開講時期	3年次後期	担当教員	専任教員	実務経験のある教員	○
学習目的	医療・看護チームの一員としての体験を通して、患者の状況に応じた看護の優先度を考えた総合的な看護実践能力を培うとともに、看護に対する考えを探求する。また、多職種とその役割を知り、連携・協働した医療・ケアの実践の必要性と看護の専門性と役割について学ぶ。				
学習目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 一人の受け持ち患者の看護展開を実施すると共に、複数の患者を受け持ち、臨床の場で起こる様々な状況に対する判断力を養う。</li> <li>2. 看護チームの一員であることを自覚し、自らの判断・行動に対する責任感を養う。</li> <li>3. チーム医療におけるマネジメントの実際を通して、基礎的なマネジメント能力を養う。</li> <li>4. 多職種連携・協働の実際と看護の専門性や役割について考えることができる。。</li> <li>5. 自己の学習課題を明確にする。</li> </ol>				
授業計画	<p>1グループ4名から6名にて編成する。 臨地実習7日間、学内実習2日間で構成。</p> <p>[方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①受け持ち患者および複数患者を受け持ち優先順位をつけた看護実践について考える。 ただし、看護過程の展開は1名とする。</li> <li>②看護管理者、チームリーダーの業務を見学し、看護管理について理解する。</li> <li>③院内で横断的に活動している委員会や入退院支援、カンファレンスなどに参加し、多職種連携・協働の実際を理解する。</li> <li>④事前課題として、これまでの看護学実習を振り返り、「統合実習における自己の課題」についてまとめ、発表する。</li> <li>⑤事前学習では、各実習施設の概要、役割、機能や看護管理、チーム医療、医療安全などの学習をしておく。</li> </ol>				
授業方法	臨地実習。全ての時間の履修、及び到達課題の達成がなければ単位の取得ができない。				
テキスト・参考文献					
評価方法	実習目標の達成度および実習への参加態度、実習記録類、実習終了後の課題レポートの内容、出席状況について自己評価・教員評価、指導者からの情報提供を加味し総合的に評価する。				
実習施設	高知県厚生農業協同組合連合会 JA高知病院 高知県立あき総合病院 土佐市立土佐市民病院 いの町立国民健康保険 仁淀病院 独立行政法人地域医療機能推進機構 高知西病院 医療法人治久会もみのき病院 細木病院こころのセンター				